

第2回日本DCD学会 学術集会  
(ウェブサイト用抜粋記録)

学会テーマ	協調運動が苦手な子どもたちへの理解と支援の充実において
会期	2018年4月14日(土曜日)・15日(日曜日)
会場	弘前大学創立50周年記念会館
大会長	増田 貴人(弘前大学)
主催	日本DCD学会
後援	弘前大学教育学部附属特別支援教育センター 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター
大会事務局	第2回日本DCD学会事務局 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 Email: jsdcd2@hiroski-u.ac.jp

## 大会長挨拶

このたび、第2回日本DCD学会学術集会を2018年4月14日（土）～15日（日）の両日、弘前大学創立50周年記念会館を会場として開催させていただくことになりました。大会長として、現在実行委員とともに準備をすすめております。

大会テーマは「協調運動が苦手な子どもたちへの理解と支援の充実におきて」といたしました。協調運動を苦手とするDCD（発達性協調運動症：Developmental Coordination Disorder）は、発達障害のひとつとしてその存在が徐々に認知されるようになってきました。しかしながら、DCDの病態メカニズムの解明や支援のエビデンスにつながる研究は、国内外で未だ十分とはいえません。欧州ではEACD（European Academy of Childhood Disability）が研究成果をもとにしてDCDの定義や診断、介入のためのガイドラインを策定していますが、国内では未だ整備されていません。DCDの正しい理解や啓発、そして診断・評価と支援の充実のために、と取り組むべき課題は山積していますが、本学会は、DCDを共通のキーワードとして、医療や教育、体育、心理、福祉などに関係する多職種のプロフェッショナルで構成されておりますので、協調運動が苦手な子どもたちへの理解と支援の充実におけた交流や議論をとおして、DCDのある子どもたちの発達を支える大きな力となればと願っております。

今回の学術集会では、オーストラリアからPeter H Wilson先生（Australian Catholic University）をお招きし、Understanding recent research on DCD: From data to practiceについて講演いただきます。Wilson先生は国際DCD学会前会長をつとめたDCD研究の第一人者です。世界的動向を知るためにも、少しでも多くの方々に講演内容をお聞きいただきたく存じます。また、講演・シンポジウムその他、一般演題も募集いたしますので、こちら積極的に演題に御応募いただければと存じます。さらに実践的企画として、DCDの子どもたちの支援に有用なアセスメントツールの研修会も計画しています。

大会期間中の弘前は、例年、弘前城を会場とするさくらまつりを目前として、趣深い素敵な季節です。ご関心のある皆様に多数ご参加いただけましたら幸いです。

第2回日本DCD学会学術集会大会長  
増田 貴人（弘前大学教育学部）

## 大会プログラム概要

### 大会長講演

4月14日(土) 13:45-15:15

DCDの啓発と支援の充実に向けて

増田 貴人 (弘前大学教育学部)

座長: 岩永 竜一郎 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

### 特別講演

4月15日(日) 9:00-10:30

Understanding recent research on DCD: From data to practice

Peter H. Wilson (Australian Catholic University)

座長: 増田 貴人 (弘前大学教育学部)

通訳: 奥村 安寿子 (国立精神・神経医療研究センター)

北 洋輔 (国立精神・神経医療研究センター)

### シンポジウム

4月15日(日) 10:45-12:30

DCDの脳科学的知見と実際の支援

シンポジスト

DCDについて分かっていること、まだ分かっていないこと、知りたいこと

中井 昭夫 (兵庫県立リハビリテーション中央病院)

脳科学的知見からDCDを考える

柏木 充 (市立ひらかた病院小児科)

発達性協調運動障害児への療育 (作業療法を中心に)

岩永 竜一郎 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

ファシリテーター

柏木 充 (市立ひらかた病院小児科)

宮地 泰士 (名古屋市西部地域療育センター)

一般演題（オーラル）

4月15日（日）13:30-15:00

プレコンgres

4月14日（土）9:00-12:00

日本版 Vineland-II 適応行動尺度研修会 [結果の解釈と支援計画への応用]

萩原 拓（北海道教育大学旭川校）

主催 弘前大学教育学部附属特別支援教育センター

共催 日本 DCD 学会

## 一般演題名

一般演題（オーラル）

4月15日（日）13:30-15:00

- 困り感を有する高い知能のある人の協調運動特性
- ASD 児における運動発達と社会性との関連について（I）～運動発達支援を通じた M-ABC 2 と Vineland-II の検査結果をもとにした事例～
- 幼児期における微細運動の特徴
- 幼児期における協調運動の発達特性
- 自閉症スペクトラム障害児の姿勢制御における LT 効果の特性解明
- 自閉スペクトラム症者における体性感覚処理への視覚的注意の影響
- 当センターにおける不器用を伴う発達障害幼児療育の現状と課題
- 幼児における協調運動チェックリストの開発
- 5歳児における協調運動機能へ影響を及ぼす感覚及び認知的因子
- 不器用児に対する小集団作業療法の効果に関する予備的研究

## 第2回日本DCD学会学術集会 実行委員組織

大会長 増田 貴人（弘前大学）

事務局 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座